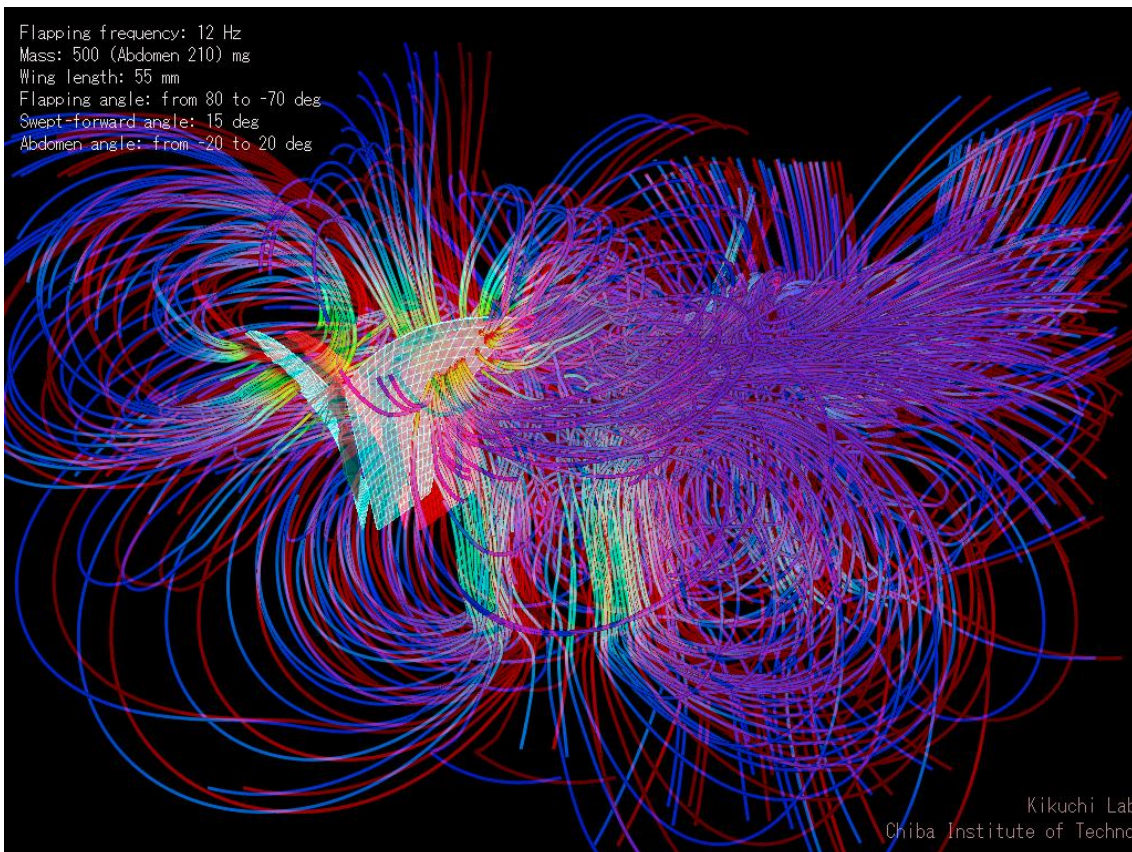
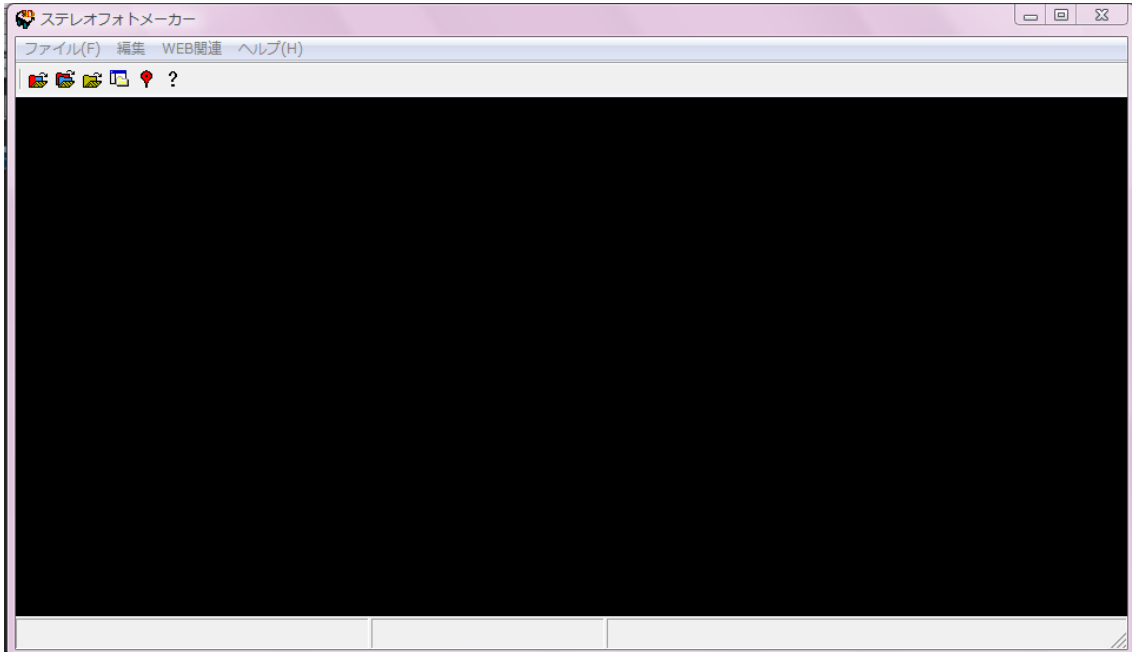


ステレオフォトメーカー マニュアル (Ver. KIKU Lab.)



1.アナグリフ方式の原理

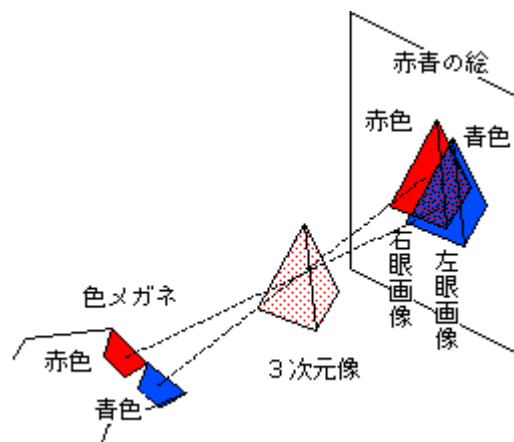


Fig. 1_1 アナグリフ

両眼視差のある2枚の画像を赤青の2色（補色の関係にある色）で表示し、これを赤青メガネを通して見る。左右の目にはどちらか一方の色の画像しか見えない。

●両眼視差とは

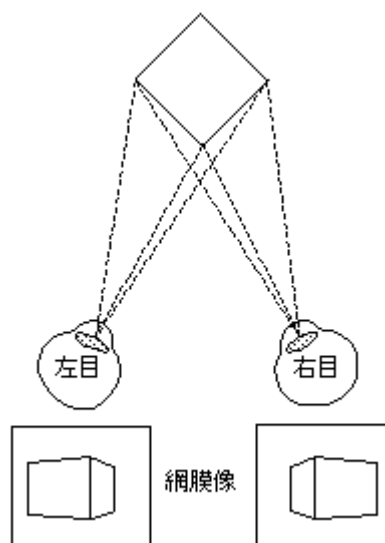


Fig. 1_2 両眼視差

右目と左目の網膜に写った像の違いを脳内で処理して奥行きを知覚すると考えられている。近距離において奥行き知覚のもっとも重要な要因となる。

2. 画像の作成

MicroAVS で対象(蝶)の位置が最も立体に飛び出るか、奥に下がるかが決定される。

(詳しくは MicroAVS マニュアルを参照)

3D は通常の倍のデータが必要となるうえ、データ毎、視点毎に最適な設定が違うので、各設定値は必ず保存する。

- (1) MicroAVS で物体の表示窓のツールバーで物体／位置の指定
相対座標指定となっていれば絶対座標指定に変更。
- (2) ズームの比率を下げる。
(蝶は前進するため最後のファイルで調整する。)
- (3) 座標を変更して画面の前に移動。
- (4) 値が大きいと消失するが(2)(3)を調整して拡大ではなく、位置をカメラと近くする。
(奥行きを出したい場合は逆に)
- (5) この状態で画像を作成する。
- (6) 次にもう片方の目で見えた状態のデータを作成。
- (7) 両眼視差の分だけ座標をずらす。
- (8) 実行

3.画像の調整

3_1.一枚だけ作成

- (1) ステレオフォトメーカーを起動し、メニュー／ファイル／左右の画像を開くを選択する。



Fig. 3_1 左右の画像を開く

- (2) まず、左の位置から撮影した画像を選択し、「開く」ボタンを押す。

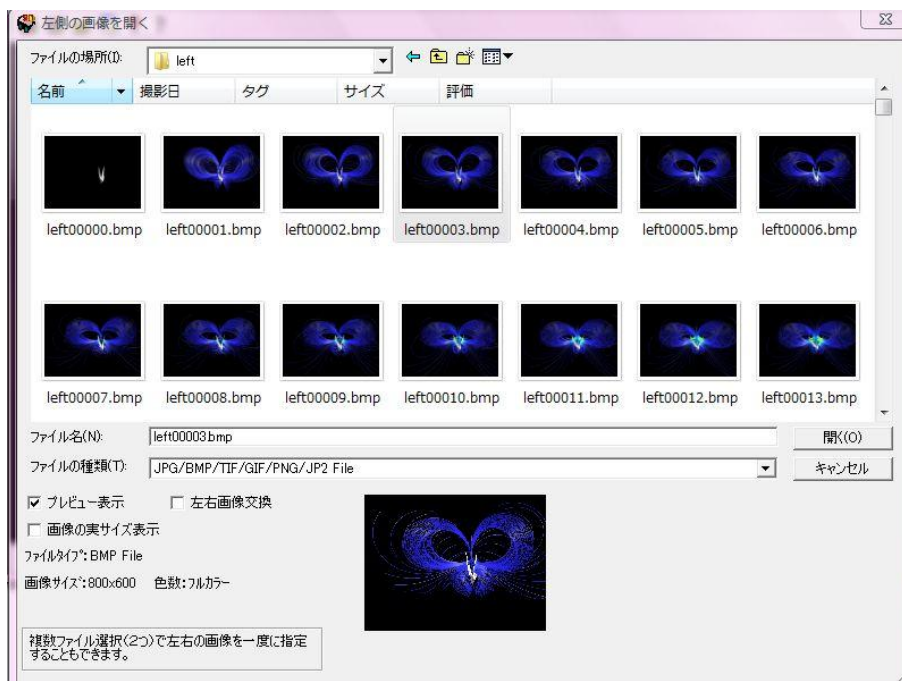


Fig. 3_2 左側の画像を開く

(3)メニュー／ステレオ形式／アナグリフ（カラー）表示／カラー赤補正（赤-シアン）を選択する。

（下ののように、ツールボタンの下矢印を押し、カラー赤補正（赤-シアン）を選択しても良い。）赤っぽい画像でアナグリフ（赤青メガネ用の画像）を作成する時は、カラー赤補正の方が見やすい。

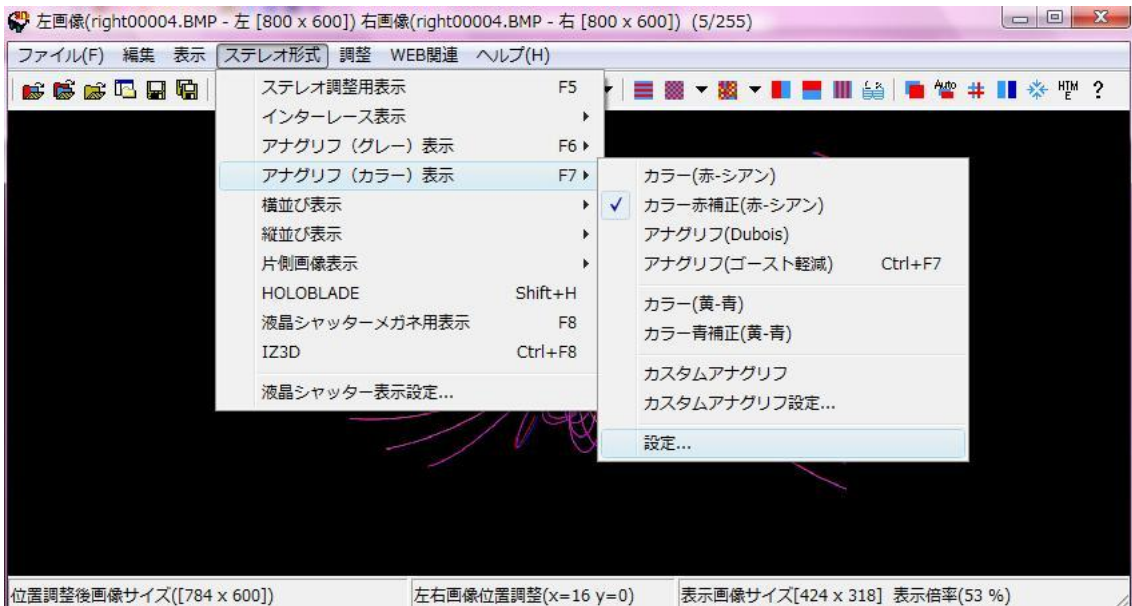


Fig. 3_3 カラー赤補正 1

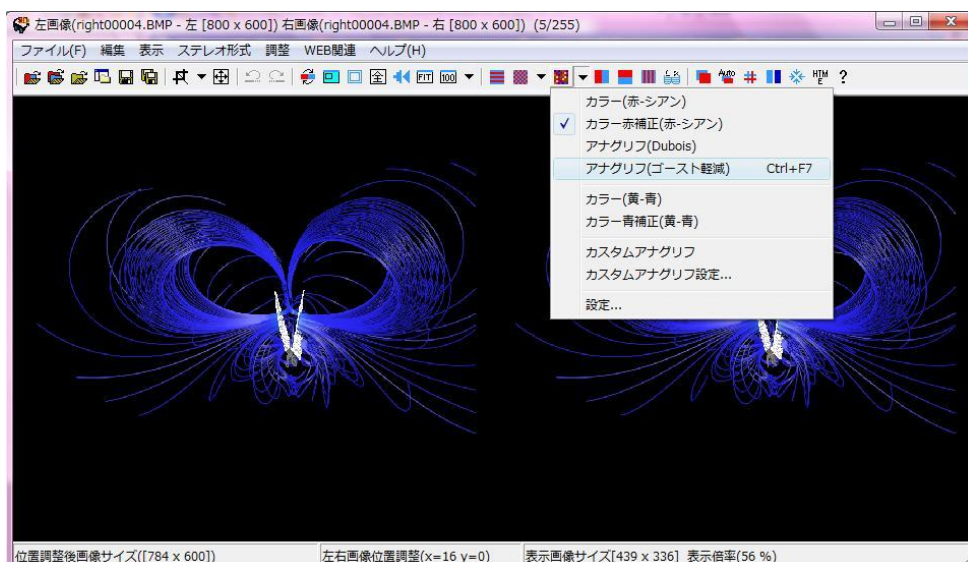


Fig. 3_4 カラー赤補正 2

(4)カメラ撮影、AVSに関わらず左右にずらして撮影すると、このように、左右の画像の角度や位置が決まらなると、赤青メガネで見ても、うまく立体に見えません。しかし、ステレオフォトメーカーでは手動または自動で位置を調整することが可能です。手動での調節方法はキーボードの方向キーを使います。

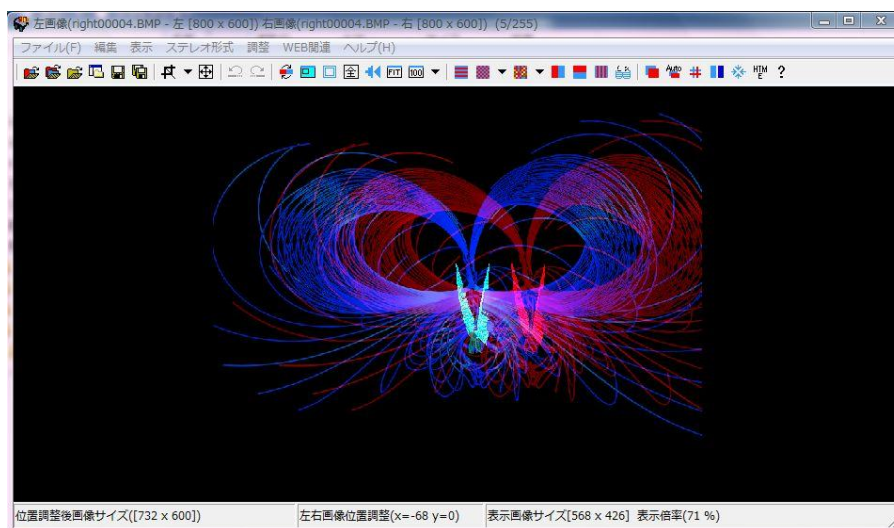
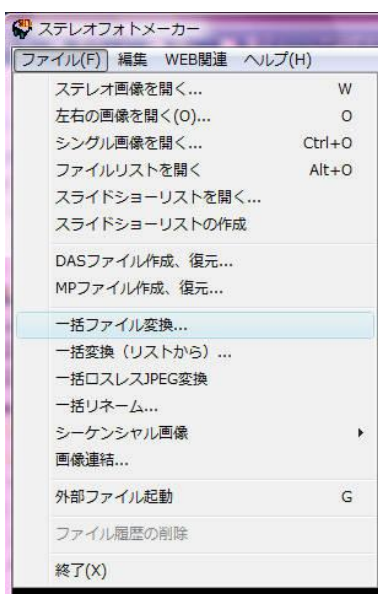


Fig. 3_5 左右のズレ

(5)ステレオ画像として保存する。

メニュー／ファイル／ステレオ画像保存を選択するか、下のように「ステレオ画像の保存」ボタンを押す。

3_2. ファイルの一括変換



調整をした場合の確認は出力しなければできないので、大筋が決まってから一括処理するとスムーズである

Fig. 3_6 一括ファイル変換

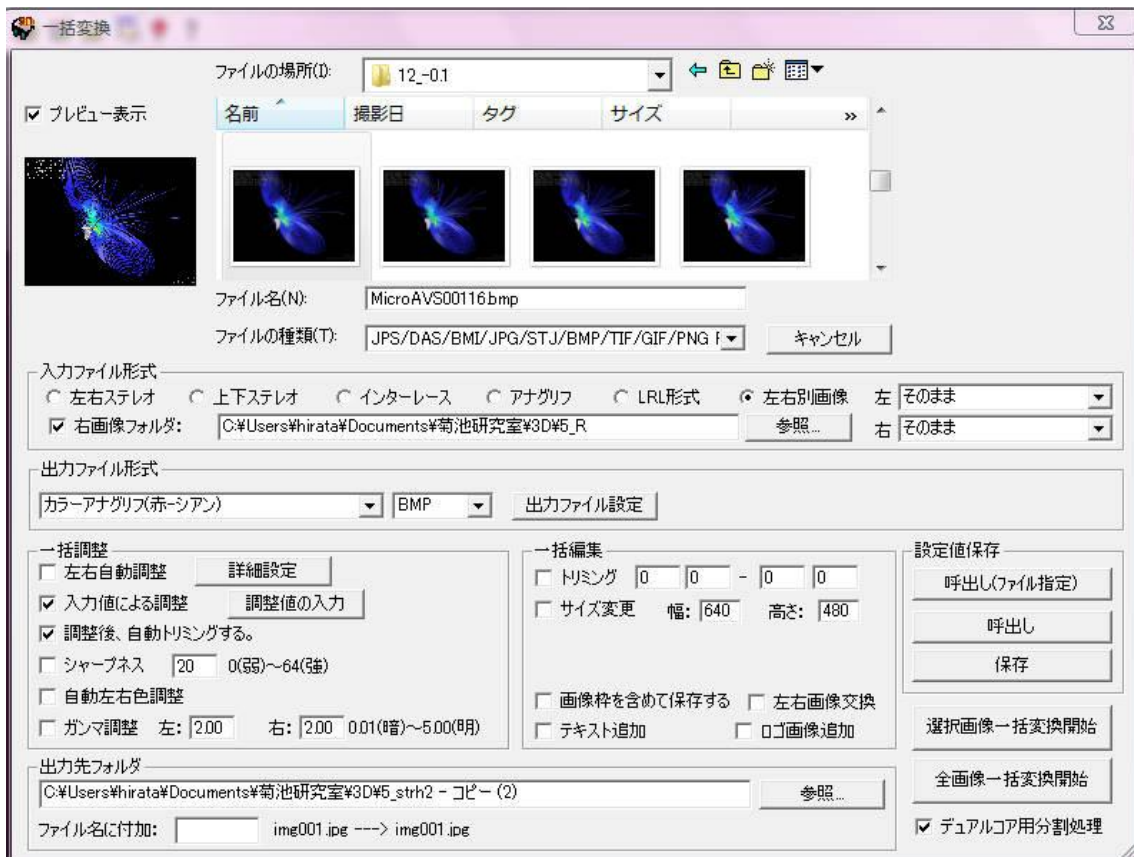
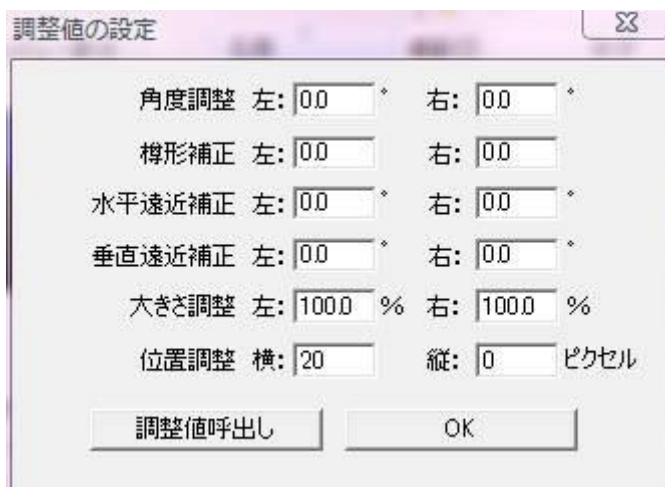


Fig. 3_7 一括変換

入力ファイル形式は左右別画像でそれぞれを選択する。

ファイル名を元々末尾に R,L と振り分けていれば同一フォルダ内で良いが、フォルダを別に用意するのが楽である。



左右の画像の位置は「入力値による調整」を選択する

Fig. 3_8 調整値の設定

「設定値の保存」これは一括変換画面での設定を保存する

「選択画像の変換」

選択された画像のみを変換する。

設定の変更の確認はこれですと楽

「一括画像変換」

対象フォルダの全画像を変換する。